

令和8年5月7日

市指定史跡・須津千人塚古墳から出土した  
朝鮮半島の百済にゆかりのある帯金具の調査結果について

このたび、市指定史跡・須津千人塚古墳の発掘調査で出土した金銅製品について、6世紀後半から7世紀前半頃の朝鮮半島・百済にルーツを持つ、極めて装飾性の高い帯金具（ベルトの金具）であることが判明しました。

百済特有の繊細な文様や高度な金工技術を備えた同時期の帯金具が、これほど良好な状態で確認された例は全国的になく、貴重な発見と言えます。

また、貴重な本出土品を広く皆さんにご覧いただくため、富士山かぐや姫ミュージアムにて一般公開を行います。

記

- 1 出土品名 須津千人塚古墳出土 金銅製帯金具
- 2 員数 3点（帯先金具<sup>おびさき</sup>1点、銚板<sup>かばん</sup><sup>(1)</sup>2点）
- 3 出土地 富士市神谷846-3（須津千人塚古墳石室内）
- 4 経緯 市指定史跡である須津千人塚古墳の整備工事に伴い、令和6年度に実施した発掘調査で出土した金属製品について、令和7年度に静岡県埋蔵文化財センターで保存処理<sup>(2)</sup>を行った結果、新たに本資料の内容が明らかになった。  
なお、現地の古墳と石室については令和7年度に整備工事が完了し、現在、一般公開を行っている。
- 5 特徴 いずれの出土品にも、蹴り彫りや毛彫り彫金<sup>(3)</sup>による極めて精緻な文様が認められる。帯先金具（別紙：写真1）には、上部に古代中国で仙人の住む山として知られる三神山（蓬萊山<sup>ほうらいさん</sup>・方丈山<sup>ほうじょうざん</sup>・瀛州山<sup>えいしゅうざん</sup>）と、宝珠形に向かい合う2羽の鳳凰<sup>ほうおう</sup>が表現され、中央から下部には、口を開いた鬼神<sup>きじん</sup>（鬼面）が雲気や唐草文を伴って意匠化されている。

また、円環の付く鍔板（別紙：写真2・3）には、三神山を想起させる唐草文や光芒文こうぼうが流れるような筆致で施文され、いずれも卓越した金工技術を示すものと言える。

## 6 意 義

### <要 点>

- ① 6世紀後半から7世紀前半の百済の技術者が制作した可能性が高い、現状では国内唯一の金銅製帯金具である。
- ② 同時期の東アジアの仏教文化や国際情勢を考えるための基礎資料となる。
- ③ 聖徳太子の一族と本地域との関わりがうかがえる。

### <解 説>

本出土品は、国内に明確な類例は見られないものの、その形態はサビ期百済<sup>(4)</sup>において官人の身分を示した帯金具と多くの共通点を有している。高度な彫金技術のほか、三神山・鬼神などを表す文様構成からも、百済系の技術者によって制作された帯金具である可能性が高いと考えられる。

須津千人塚古墳の被葬者が活躍した7世紀前半から中頃には、推古天皇の摂政であった聖徳太子うまやどのおう（厩戸王）によって法隆寺が建立され、鞍作鳥くらつくりのとり<sup>(5)</sup>をはじめとする百済系の技術者集団が倭王権の中核で活躍し、造仏や馬具生産、繊維工芸などが発達した。法隆寺献納宝物（東京国立博物館蔵）には、本資料と共通する鳳凰や鬼神、宝珠文を施した錦（紋織物）が複数伝来しており、飛鳥時代の文化的背景を示す貴重な資料となっている。

また、文献史学および近年の考古学的知見によれば、須津千人塚古墳が所在する駿河東部地域には、聖徳太子の一族である上宮王家じょうぐうおうけが管掌した壬生部みぶべや膳大伴部かしののおおともべなどの集団が数多く居住していたと考えられている。

したがって、本出土品は須津千人塚古墳の被葬者が上宮王家との関係性の中で入手した品であった可能性が高く、また6・7世紀の国際情勢や各国間の政治・文化交流の実態を考える上でも極めて重要な出土品として位置付けることができる。

**7 今回の成果** 本地域の歴史にとどまらず、古墳・飛鳥時代の国際交流や、国内に仏教美術を伝えた技術者集団の活動を考える上でも重要な意味を持っている。

そして、須津千人塚古墳に眠る人物が、当時の政治的・文化的ネットワークの中でいかなる立場にあったのかを解き明かす鍵となるものとなる。

**8 一般公開** と き／5月9日（土）から5月24日（日）まで

ところ／富士山かぐや姫ミュージアム展示室 1

※9日（土）と24日（日）は、13時から文化財課職員による「ミュージアムトーク」も行います。

#### 用語解説

- (1) 帯の表面に貼り並べられた装飾板。
- (2) 出土品に付着したサビや泥を除去した後に、防錆処理や強化処理を行い、破片の接合や修復作業を行うこと。
- (3) 蹴り彫りはたがね鑿を斜めに打ち、小さな三角形の連続によって文様を表現する技法。毛彫りは、鑿を用いて金属の表面を削り取ることで、髪の毛のような細く繊細な線を彫る技法。
- (4) 古代朝鮮三国の百済が、最後の首都（現在の忠清南道扶余郡）を拠点とした、538年から660年にかけての時代を指す。「泗泚期百済」とも表記される。
- (5) 日本最初の本格的寺院である飛鳥寺の釈迦如来像（飛鳥大仏）のほか、法隆寺金堂の釈迦三尊像を制作したことで知られる、飛鳥時代を代表する仏師。近年は鞍作氏が金工に限らず、皮革加工や繊維工芸にも長けていたことが注目されている。「鞍作止利」とも表記される。

問合せ 富士市教育委員会文化財課 文化財活用担当  
電話／0545-22-2095 FAX／0545-22-2096  
e-mail／ky-bunkazai@div.city.fuji.shizuoka.jp